

Victory

NO.3

令和5年6月

宮崎県立宮崎西高等学校・附属中学校図書館

6月6日の芒種、21日の夏至と、季節は動いていきます。先日ようやく近所の田に水がはりました。ちょっと不思議な感覚を覚えます、3月の田植えが当たり前だったことを考えると。でも、なぜ？（そんなの〇〇に決まっているじゃない！と言われたらそれまでですが…）いろいろ考えを巡らせてみます。気候的なことか？この田んぼの所有者の個人的な理由なのか？（でも、他の田んぼもまだ水がはっていないところはあったしなあ）なぜなのかを考えると、いろいろな可能性が考えられます（まあ、近所の方だから、直接聞けば解決しますが）。どこから、解を見出そうか…まずは宮崎の早期米の現状について調べてみるのも面白そうです。そこから予期せぬ課題が浮かび上がってくるでしょう。

「なぜ？」のタネはとても大切です。「私」という一人の人間の身の回りにあった小さな出来事からこぼれてたタネ、そこから研究は始まっていきます。

長崎の小説好きの女子高校生が、「落ち葉はどうして裏向きで落ちているものが多いのだろう」と疑問を抱いたことから始まった研究がありました。そのきっかけは、高1の課題探究時に椿油を使う実験を行っていた際に通りすがりの先生から、「椿といえば寺田寅彦さんの研究がある」、それは「椿の花は仰向けに落ちていることが多いことを証明した研究だ」ということを教えてもらったことを覚えていたそうです。彼女の研究は『13歳からのサイエンス：理系の時代に必要な力をどうつけるか』緑慎也著（ポプラ新書 2023）に掲載されています。

オリジナルとは、先行する誰かの成果の上に誕生するのだということを、興味深く楽しく気づかせてくれる一冊です。あなたのタネから芽が出ますように。



奮闘する図書委員！！



4月新体制になり、昨年度にも増してバージョンアップしている委員会です。新たな取り組みに着手したのは、「先生に聞く！おすすめの本 図書新聞」発行です。先生にアポイントを取り、あらすじ・その本との出会い（きっかけ）・生徒に一言などを担当委員がインタビューし、記事にまとめて発行します。

目的は、本を通して先生のことを知ってもらい、さらに多くの生徒が本を読むきっかけになってほしいと思ってこの活動をしています。

先生方のおすすめの本は、特設コーナーを設けて常設します。ぜひ、手に取ってあなたの知の引き出しを増やしましょう！（先生方、インタビューの際はよろしくお願い致します。）

なお、年間貸出冊数も決めたようです。図書館は知の宝庫、使わないと損！

目標貸出冊数

年間 10,000 冊



高1 現代文 『羅生門』

先月は、高2の『山月記』関連資料コーナーを設置しましたが、今回は高1『羅生門』コーナーを設置しています。作家としての芥川龍之介がわかる資料、『羅生門』をつくる元になった『今昔物語』、作品が出版された時の装幀を施したレプリカなど、もちろん『羅生門』（文庫版）も展示しています。

作品世界および作家本人に迫ってみませんか？



棚からひとつかみ『サイエンス探究』

今回は、自然科学分野の探究関連図書の紹介です。

どんなプロセスで研究を進めていったのか？そして、ただ進めればいいのか？そんな大切なルールがあることを知っていますか？そんな2冊です。

『13歳からのサイエンス』 緑慎也著

NDC407ミ (ポプラ社 2023)

ここには8名のみなさんと同世代の受賞者(科学コンテスト)の研究プロセスが紹介されています。「誰もやっていないこと」…冒頭でも紹介した長崎の女子高校生の研究もそうですが、「誰もやっていないこと」を勘違いしないでほしいのです。共通するのは、どんな研究にも先行研究があるということです。そこを知ることから、「誰もやっていない」自分の研究は始まることを8名が教えてくれます。



『13歳からの研究倫理』 大橋淳史著

NDC407オ (化学同人 2018)

きみろん(あるいはSTEAMジュニア)、進んでいますか？テーマ設定に四苦八苦している様子があるか？とてもいい体験をしていると思います。さて、この本は13歳の少年が先行研究から興味を持ったテーマで研究しようとするところから話が始まります。実は、研究にも「ルール」(倫理)があるということ、そのことを知り、進めていくことの大切さについてわかりやすく説明しています。あなたも、倫太郎君(本書の主人公)と一緒に研究倫理を学んでいきましょう。



歌集『春の引き出し』 児島直美著 (ながらみ書房)

2017年宮日文芸賞歌壇賞を受賞された児島直美さんは、本校の国語講師として教鞭をとられていた方です。短歌を始めたのは2016年春。歌人本人のめまぐるしい日常において三十一文字はやわらかく受け容れてくれたとあとがきにありました。本校を素材とした短歌も数首あります。5/24(水)宮日文化面(12)に「みやざき関連ブック PLUS」に掲載されています。また、この歌集のことをお知らせくださった藤井先生そして印刷室の井上さんに感謝します。



やさしさがあふれる歌集です。歌を物語る装幀がこれまたとても素敵です。



扉を開こう。新たな世界が君を待っている。

哲学するってどういうことなのか、一緒に考えてみませんか？

日常のモヤモヤとした気持ちを抱いたこと、一度や二度ではないと思います。なぜ？どうして？

広島大学 WWL コンソーシアム 構築支援事業の中のセミナーです。

講師は、『水中の哲学者たち』(晶文社 2021)の永井玲衣さんです。難しいと思われがちな哲学を、哲学の重厚さに苦手意識をもつ！？哲学者が、日常を通して語りかけられます。あなたも私も哲学者。

日時：7月14日(金)
16:10~17:00

場所：図書館

定員：8名

*参加希望者は、7/7(金)までに
図書館の小原まで。

